

「令和6年度 FC五十公野 指導方針」

[目的・理念]

☆サッカーを通じて、競技マナー・協調性・自立心等を養い、地域社会に根ざした青少年の健全な育成を図る

[チーム目標]

☆県大会ベスト8

・デボカップ、マルソーカップ、ホンダカーズカップ、全日本U-12選手権大会、東北電力杯フットサル大会 その他、同レベルの大会や遠征。

[選手目標]

☆クリエイティブ(創造性豊か)でたくましい選手を目指そう

- ・創造性が豊かで何事に対しても一生懸命に取り組める選手を育成する。
- ・自分自身で積極的に考え行動し、自ら答えを導き出し、表現できる力を持つ選手を育成する。
- ・失敗やミスを恐れずに自分の決めたことに対して自信を持ちプレーする選手を育成する。
- ・戦う姿勢を持ち、絶対に負けたくないという強い気持ちを持ってプレーできる選手(メンタル面の強化)を育成する。
- ・挨拶を自ら進んで積極的に行ったり、自分でサッカー道具の準備、管理ができる選手(自立)を育成する。
- ・親元を離れての活動(試合や遠征等)を通し、自立して行える部分を増やし、生活の場にフィードバックする。

[指導点]

☆相手プレッシャーの中での正確な技術と判断

- ・サッカーで最も必要であるボールを「蹴る」、「止める」、「運ぶ」という技術の習得。
- ・状況に応じてそのプレーが1番ベストかどうかを判断し、表現(シュート、パス、ドリブルなど)をする。
- ・様々な種類のキックやフェイント、ヘディングなどの習得を目指す。
- ・1対1の攻守でベストの選択をし、チャレンジする。(※サッカーは1対1の局面が多い。)
- ・味方同士でコンビプレー(ダイレクトパス、ワンツーパスなど)を積極的にチャレンジし、成功できるようにする。
- ・できるだけ答えを教えるのではなく、そのヒントを教え、選手に考える力を養う。
- ・見本となるプレーや行動をした選手に対しては積極的に褒めていく。

☆声を出せること(戦術的な声、戦う声、味方を励ましたり、アドバイスする声など)

- ・声を出すことによりチームが得になること(攻撃面のチャンスの場面やDF面のマークの受け渡しなど)を理解させる。
- ・試合中など声を出すことによりチームが一丸となり、まとめ、集中して試合に臨めることを理解させる。

☆サッカーのルール、マナーを守ることにより、それを普段の生活面(家庭、学校など)にも生かしていく

- ・素晴らしいチームや選手はオフザピッチ(サッカー以外)の部分がしっかりしていることを理解させる。
- ・相手チームや審判を尊重することにより、ベストのゲームができることを理解させる。

☆保護者などの協力によりサッカーができる喜びや感謝の気持ちをもち練習などができることを意識させる

- ・周りの協力者(コーチや保護者など)がいるおかげで自分の好きなサッカーができることを理解させる。
- ・1人ではできないことをみんなでやれば達成できること(協力し合うことの大切さ)を理解させる。